

審議会等の名称	令和7年度 第1回 瑞穂市子どもの読書活動推進会議
開催日時	令和7年7月1日(火曜日) 午後2時00分 から 午後3時30分
開催場所	巢南公民館 ふれあいホール
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>第三次瑞穂市子どもの読書活動推進計画の概要について</li> <li>令和7年度の読書活動推進について <ol style="list-style-type: none"> <li>「家読」運動の啓発推進と家庭での読書環境の整備</li> <li>小学校で読書活動を「充実」させ、中学校での「強化」</li> <li>小・中学校の図書システムの統一</li> <li>「子ども図書館」をめざした市図書館分館の整備</li> </ol> </li> </ol>
出席委員	戸田 一文・曾我部 雄志・吉田 里美・井深 吉男・佐藤 良典・石樽 友香・高橋 由夏・河合三奈子・藤本 桂子・瀬上 涼・熊谷 祐子
欠席委員	宇野 睦子
公開の可否 (非公開理由)	公開可
傍聴人数	0人
審議の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>第三次瑞穂市子どもの読書活動推進計画の概要について(事務局) <ul style="list-style-type: none"> <li>瑞穂市の基本目標は「本に親しみ、本を楽しみ、本に学ぶみずほの子の育成」である。「読書のまちなみずほ」を合言葉に、子どもたちが本に触れ、読書を通じて人生を豊かに生きてほしいという願いが込められている。この目標を具現するための基本的な方針として、子どもが読書に親しむきっかけ・習慣づくり、子どもの読書活動を推進する環境づくり、子どもの読書活動の魅力づくり、子どもが読書を楽しむ連携体制づくりを大切にしている。</li> </ul> </li> <li>令和7年度の読書推進活動について(事務局) <ul style="list-style-type: none"> <li>第三次子どもの読書活動推進計画では、次の4点を重点として推進している。 <ol style="list-style-type: none"> <li>「家読」運動の啓発・推進と家庭での読書環境の整備</li> <li>小学校で読書活動を「充実」させ、中学校での「強化」</li> <li>小・中学校の図書システムの統一</li> <li>「子ども図書館」をめざした市図書館分館の整備</li> </ol> </li> <li>家庭教育学級では、「家読」の推奨を継続している。今年度は11の小学校、幼稚園、保育所で家読に関わる取り組みを行う。</li> <li>ブックスタートは、10か月検診などの機会に、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動である。毎月2回、年24回実施をしている。平均20～25組ほどの親子が参加している。</li> <li>今年度は、第25回ネオクラシックコンサートとして「絵本の音楽会」を10月13日に開催する。</li> <li>ビブリオバトルは、今年度で4回目となる。本市のビブリオバトルは、学校の教育活動内で可能な方法で取り組み、学習の成果を発表し称える場として実施する。おすすめの本(自分が好きな本)のよさを見つけたり、仲間がおすすめする本に触れたりすることで、本に興味・関心をもつことを大切にす。あくまでも、ビブリオバトルは読書に親しむきっかけづくりの一つで、本番までの取組の中で、多くの子どもたちが本のジャンルに関係なく読書に触れ、本の楽しさや面白さを実感していくことができると考えている。</li> <li>今年度は、10月11日に、ココロかさなるCCNセンターを会場に行う。</li> <li>小中学校で長年利用してきた、図書システムは見直しの時期にきている。昔のPCに合わせて作られたソフトは動作環境が不安定で、更新や拡張機能の充実が望めない。そこで、子どもたちのタブレットを活用した最新の図書館システムの導入について市として検討を行っている。ただ、導入費用、ランニングコストが高く、その費用対効果について十分検討する必要があると考えている。</li> <li>市図書館は子どもたちの読書活動を支援する施設である。特に分館では、児童書や子ども向け新聞をそろえ、絵本の棚、絵本フロアなど子育てに関わる支援を行っている。子どもや子どもをもつ親が利用しやすく本に親しみやすい施設整備と事業の企画に努めている。</li> <li>指定管理者導入に向けた準備を進めている。指定管理者選定委員会を行い、募集要項、仕様書を固めた上で、公募を行っている。順調にいけば、10月中旬から下旬に審査、12月議会で議決、令和8年4月から指定管理者を導入していくという流れになっている。</li> </ul> </li> </ol>

- ・令和6年度の図書館の利用状況について、来館者数、貸出者数、貸出点数ともに令和5年度よりも減少している。空調工事の影響もあり、開館日数が減ったことが要因と考えている。
- ・図書館事業について、その一部を紹介すると、分館では、子どもの読書週間として4月12日から5月11日まで「BOOK BINGO!」を行った。夏休み特別企画として、8月27日に「藍の葉っぱで図書館バックをつくろう!」を小学5・6年生を対象に行う。10月中旬には、読書週間にあわせて「おしえて!みんなのイチ推し本」を行う。
- ・その他に、6月15日に「水の音コンサート」を行った。また、9月15日には絵本作家のとよたかずひこさんをお招きし、「とよたかずひこさん講演会」を行う。定例企画として、読み聞かせの「おはなしの会」や「ストーリーテリングおはなしの会」、「わらべうたであそぼう」を行っている。また、子ども支援課と連携し、「産前産後交流会」を行っている。

### 3. 意見交流

(高橋委員)

- ・小中学校の図書館システムについて、市の図書館システムと連携させる目的、利点は何か。
- 学校にいながら、どこにどんな本があるのかが分かること。また、子どもたちが使っているタブレットを活用して、蔵書検索ができること。蔵書管理が一括でできることで、同じ本を買う必要がなくなること、等があるが、それだけの費用をかけてやる価値があるのかを検討していきたい。

(藤本委員)

- ・瑞穂市の図書館、特に分館は事業もたくさんあって、非常に魅力的だが、保護者が忙しく、子どもたちが行きたくても行けないことがある。前から言っているが、子どもたち、自分たちでバスに乗って行けるようなシステムが作れないか。指定管理者が入るのであれば、バス停を図書館の前に持つてくるとか、みずほバスの路線を考え直すなどすることはできないか。子どもの居場所が大事だと言われている中で、図書館は子どもの居場所として素晴らしい役割を果たしてくれるのではないか。
- ・小学生、特に高学年であれば、図書館は子どもだけで校区を超えて行っていいとしてももらえれば、やがて中学生や高校生になっても図書館に足を運ぶのではないか。今、読み聞かせのボランティアをしているが、どうしても保護者が連れて来ることができる子、決まった子になりがちである。来たくても来ることができない子は多いのではないか。
- 現在、サンコーパレットパークにバス停がある。みずほバスのバス停については、企画部(総合政策課)でやっているが、調整できるかどうか、検討してみたい。みずほバスは、校区によっては乗り換えが必要かもしれないが、市内ぐるっと回ることができるので、例えば、春先に高校生を無償にしているように、本を読むということで子どもたちは無償にするなど、やれることを検討してみたい。
- 小学生が校区外に出ることについて、保護者の了解を得ていれば認められる。

(藤本委員)

- ・「読書のまちみずほ」を掲げるならば、放課後に各小学校をマイクロバス等で巡回し、子どもたちが一人でバスに乗って図書館に来ることができるなどの方策も考えてほしい。

(井深委員)

- ・図書館の主要事業について、大変すばらしい内容だと思うが、どのような方法で市民に周知しているのか。一人でも多くの市民の方に知ってもらい、より多くの人に参加してもらえるように努めてほしい。
- 広報紙やホームページはもちろん、学校の保護者メールも活用している。現在、瑞穂市ではSNSも活用している。インスタグラムやフェイスブック、他にも市民メールも活用して、企画やイベントの情報発信に努めたい。

(瀬上委員)

- ・図書館の利用者が昨年度減ったということだが、年々減っているということではないか。
- 昨年度は開館日数が少なかったことが要因だと考えており、利用者が年々減っているということではない。

(瀬上委員)

- ・図書館は、毎年素敵な企画・イベントを行っていると思う。そういったイベントは図書館に来るきっかけになると思うし、図書館に興味をもってもらう場にもなっていると思う。指定管理者に移行した場合は、こういった企画・イベントはどうなっていくのか。
- 2つのパターンが考えられる。指定管理者が自ら提案する自主事業のパターンと、指定管理者はあくまでも運営を委託するわけなので、図書館の主催事業として行い、指定管理者が協力するというパターンも考えられる。指定管理者となって、こういった企画・イベントがなくなるわけではなく、むしろ今までなかったものが加わる、プラスアルファになるという捉えで指定管理者の選定を行っていくこ

	<p>とになります。</p> <p>→今までボランティアの方々が中心となって築いていただいたものを、引き続き行っていただきたいという思いで指定管理者の選定を考えている。</p> <p>(瀬上委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月中旬に図書館分館で行われる予定の「おしえて!みんなのイチ推し本」の企画と、10月11日に行われる第4回ビブリオバトルは連動しているのかどうか。</li> </ul> <p>→企画自体は連動していないが、ビブリオバトルで紹介された本については、市図書館でコーナーを設けて取り上げているし、学校でもコーナーを作って紹介している。</p> <p>(熊谷委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大野町立図書館を見る機会があり、規模は大きくはないが、入った瞬間に「本を読んで!」というオーラ、パワーがすごい。表紙が見えるように配架されており、行政は、その情熱・勢いを学んでほしい。読書は一人一人、各自が日常的に行うものであり、そこにどうやってもっていくか。企画やイベントは本当は二の次であるはず。赤ちゃんから死ぬまで、生涯を通じてサポートするのが図書館である。</li> <li>・だから、まず、重点の中でも、「4 「子ども図書館」をめざした市図書館分館の整備」が最初に来るべきである。日常的に一人一人の読書をいかに増やすか。そして、「2 小学校で読書活動を「充実」させ、中学校での「強化」がきて、「1 「家読」運動の啓発・推進と家庭での読書環境の整備」が来て、最後に「3 小・中学校の図書システムの統一」になるのではないか。ぜひ、基本的に図書館の役割をもっと認識し、生涯を通じて役立つ事業をやってもらいたい。</li> </ul> <p>→重点の順番については、第三次瑞穂市子どもの読書活動推進計画が策定された令和4年に設定されたものであり、数字の順に力を入れるという意味ではなく、どれも大事にする4本柱というように受け取っていただけたらありがたい。</p> <p>(熊谷委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者の導入という話は、本や子どもに人生をかけてきた者にとっては危機感がある。</li> </ul>
<p>事務局 (担当課)</p>	<p>瑞穂市教育委員会生涯学習課 TEL (058) 327-2117 e-mail syougai@city.mizuho.lg.jp</p>